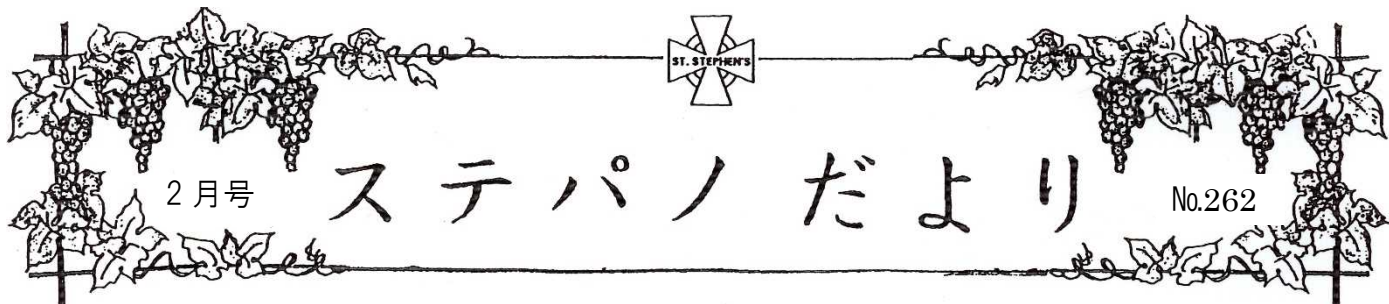




2 月号

ステパノだより

No.262

『幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、
神の恵みに包まれていた。』

ルカによる福音書 第2章40節

◎ 2月の予定

4日(金) 中学校入学考査〜5日
自宅学習日(中)
14日(月) 評議員会、理事会
18日(金) 教務委員会
19日(土) ニ〇二二年度 入学説明会
22日(火) 学年末試験(中)〜25日
25日(金) 教職員協議会

◎ 3月の予定

7日(月) 時間割変更期間〜17日
11日(金) 教務委員会
16日(水) 給食終了



式典時に使用する十字架や演台などが新しくなりました。樹齢360年の桂の木も使われています。



聖ステパノ学園の礼拝奉仕者(アコライト)に新しいメンバーが加わりました。以前からのメンバーも含め、25名全員で改めて『アコライトの心得』に耳を傾け、奉仕の大切さを学ぶ時間を持ちました。

◎ 今月の行事から

○ 2022年度入学説明会 2月19日(土)

今年度は感染症対策としてオンライン形式で実施いたします。残念ながら対面では行えませんが、参加される方の健康と安全に配慮した実施の形を模索し、一つひとつの機会を大切にしていまいります。

○ 学校の様子

今年度も残すところあとわずかとなってきました。小学校、中学校ともにまとめの時期となります。各学年、次年度へ向けての意識を高めていきます。特に中学校では学年末試験が2月22日(火)、24日(木)、25日(金)の三日間で実施される予定です。全員が体調を崩すことなく、この大切な時間を過ごせるように祈るばかりです。



学園内にも春はそこまで
きています。

もうかまだかいつの間にか

学園長 小川 正夫

昨年の十月、アメリカの宇宙船（スペースエアプレーン）で地上百六キロの宇宙へのアプローチに挑戦、卒寿（九十歳）を迎えた米国の民間人、ウイリアム・シャトナーさんが、十分ほどでしたが宇宙に滞在し無事に帰還したという報道がありました。高齢でも、長期間の特別な訓練を経験しなくても、宇宙旅行を経験できる時代になり、嬉しくなります。科学技術の進歩と時代の変化に驚きますし、夢が膨らみ私も経験してみたくあります。

同年齢の私に「もう九十ですよ」と言ってくれる人もあれば「まだ九十でしょ」と言ってくれる人もいるのですが、私は数字の年齢はあまり意識しないようにしています。

この学校に赴任する前、「翔タイム」で有名な大谷選手が所属しているロサンゼルス・エンゼルス（根拠地、オーランド・アナハイムの友人から、コンドミニアムを一週間ほど拝借、滞在しました。その機会に夢であった宇宙への入り口フロリダのNASA（アメリカ航空宇宙局）を見学する機会に恵まれました。三十年も前のことですが、その時の感動はよく覚えています。実物大のロケットの大きさ、わずかな歪みも出ないよう、組み立てや運搬は横にしないで立てたまま、固く舗装した道路ではなく、大きな玉石を敷き詰めた道

路をキャタピラーのついた車でゆっくり移動すること、当時、発射台の下はエンジンの排気口を排気熱の反射で傷めないように、大きな水槽になっていたこと、帰還したカプセルの表面が大气との摩擦で蠟燭の周りが溶けて流れたようになっていたことなど今でも目に鮮やかに残っています。

百八十度広がるワイドスクリーンに映しだされた映像の記録も圧巻で、大爆音を轟かせて上昇し地球がどんどん遠ざかる景色、明るく縁どられた手のひらサイズの小さな日本列島、やがて音のない漆黒の闇という言葉のよう、真つ暗な宇宙にぽっかり浮かぶ美しい水色のボールのような地球の姿に胸がわくわくし、こんなに美しい地球に六十億を超える人たちが、争ったり、悲しんだり、喜んだりしているのかと不思議に思いながらも、時代が新しく移り変わっていくのだなと実感したことを覚えています。

それからいろいろな国が、何度も宇宙空間に繰り返し人を送っていますが、アポロ九号で宇宙から帰還したラッセル・シュウェイカートさんが、「宇宙を経験すると、前と同じ人間ではあり得ない」と言っていますが、間接経験ですが私もそう思います。

五十数年前、エアロフロートと日本航空の共同乗り入れが可能になり、西回りの世界旅行でロシアの上空をナホトカからモスクワまで飛行したことがあります。日本から見ると地球が西に向かって回っているの、いつ

までも陽が暮れない快晴に恵まれた空の旅で、地図を見ているように地上がはつきり見えました。その時も同じように、人はどうして争うのだろう、仲良くした方がよいのにと考えていました。

いまだに世界の国々の対立がやまないのは自分の国こそが常に正しいと思っているからかもしれません。つまり自分達の考えと異質な考えを持つ人達は敵になってしまうのです。私たちの日常でも、上から目線で、正しいのは自分の考えなのだ、どうして自分を変えなければいけないのか、何とかして相手を変えようとする場合があります。相手をかえようなんて無理、だから我慢と教えてくれた人がありました。かと思えば「我以外皆我師」と書いた額がかけてある教室がありました。

他人の長所に学ぶより、どちらかといえば、人の欠点や落ち度が気になり、困難な状況を抱えている人を人格に結びつけたりしていないでしょうか、他の人の短所はよくわかりますが、自分の短所は気が付いていても認めたくないことがあります。ですが、子どもの頃小学校の先生から教わった「人の振り見て我が振り直せ」という言葉も浮かんできます。

宇宙から、いつ頃に教室や身の回りに次元が下がりましたが、宇宙への夢も、小さな教室の中から生まれるかもしれません、子ども達に夢を持たせましょう。夢や希望のない人生など寂しいです。実現の可能性など考える必要はありません。

時間

事務長 佐藤 雅美

時間って：

毎日忙しいですか？

毎日充実してますか？

時間って不思議です。みんなに平等に二十四時間与えられているのに、一人一人、捉え方が全然違うようです。速さもゆっくり感じたり、速く感じたりします。

私は、これまでと時間の捉え方が、少し変わったかなと思います。

最近、私は「時間は時計で計るものではなく、心で感じるものなんだ」と思うようになってきました。地球上には、人間だけじゃなくて、海もあれば、大地もあって、森もあり、花も咲き、虫も鳥も、動物も生きていて、みんなが同じ時間を生きています。そして、本来はみんなが、その自然のリズムで生きていたはずです。

つまらないことやしんどいことをしている時の時間は、時計を見てもちっとも針はすすみません。逆に大好きなことに没頭している時や、みんなとわいわい夢中で楽しんでいる時は、あつという間に時間がたつてしまします。まるで時間は、延びたり縮んだりする、パンツのゴムみたいなんです。

時間のお話というと思うのがモモの物語です。私たちの人生において大切な「時間」

について教えてくれる物語です。

「円形劇場に住みついた不思議な女の子モモは人のお話を聞くのが大得意。モモと話すと皆、なんだか楽しくなってくる。新しい遊びも思いつく。そんな町に灰色の男たちが徘徊し始め、子どもも大人もゆとりを失っていく。」ミヒヤエル・エンデ作「モモ」の物語はこんな風に始まります。灰色の男たちは時間泥棒。灰色の男たちから時間を取り戻すために、モモは「どこでもない場所」に行き、時間を司るマイスター・ホラに、時の源をみせてもらいます。

この物語を読むと自分に向かって言われているように感じます。私はいつも時間に追われているような気持ちで過ごしていました。毎日のやるべきことを、あれをやって、これをやって：とこなすようにして過ごしているうちに、気付けば時間だけがいつの間にか過ぎ去っているという時間の感覚です。

車のハンドルに「遊び」の部分が必ずあるように、やはりどこかで豊かさを感じられるだけの余裕を持つということが大切だと思います。

時間は人生そのものであり、時間を節約しようとするれば生活がやせ細ってしまい、それは貴重な時間で構成されている人生そのものが無意味なものになってしまうのかもしれない。頭で時間を考えるのではなく、心で時間を感じとる生活を送ろうと思いました。

今は外部からたくさんの情報が波のように

押し寄せてくる時代です。でも、自分の内側を掘っていくと、そこには思わぬものが見えてくることがあります。

毎日毎日、ものすごいスピードで過ぎ去ってしましますが、その時過ぎ去っているのは時間や物事だけではなく、感情もそうだと思います。心の反応は常にあるもので、立ち止まらないと自分の感情がわからなくなることがあります。あの時どう感じたんだろう。何を本当は思っていたんだろう。と、ひとりになつて自分に問いかける時間が必要だと感じます。心の中をのぞいた後は、周りの景色をほんの少し変わってみることが出来ます。

心の時間が戻ってくると、自分がリセットされたような感覚になります。

今は、ただ一日の出来事に感謝するさやかな祈りのような時間をつくることを大事にしています。周囲の優しさに目を向けたり、伝えそびれた感謝の言葉を思い浮かべたりして、一日を振り返ると、明日からまた頑張ろうと思えます。決して特別な時間ではありませんが、気付かないうちに自分の心に養分を与えてくれて、日々の食事の時間のようになくてはならない時間になっています。



これからどう生きるか

―日々感じ考え行動していること―

教諭 金阿彌 勉

私には二つの趣味があります。一つ目の登山につきましては、少しずつ皆様方に認知されつつあるように思います。もう一つは「料理」です。と言っても、選りすぐりの食材をしつかり揃えて本格的なメニューをつくるというよりは、いわゆる「冷蔵庫そうじ」的にあり合わせのものでレシピがない料理をつくること、あるいは残り物を味変させたり、複数の出来上り料理を合体し、別のものに生まれ変わらせたりすることにやりがいを感じています。

書き出しから私事で恐縮です。この話を担当している図工・美術の授業につなげます。しつかりそろった食材での本格的メニューは「市販のセット教材」(少しでも良い授業となるよう開発されている業者様を否定している訳ではありません)、後段の話は学園の自然環境を生かし、児童・生徒が自分の五感を働かせ採取してきた自然素材を生かしながら創作していく活動に共通していると考えています。私自身、美術教育学会や横浜美術館との連携活動を通し、これからの図工・美術教育はどうあるべきか、ステパノの児童・生徒に何が必要か学ばせていただいております。

STEAM 教育をベースにしたこれからの教

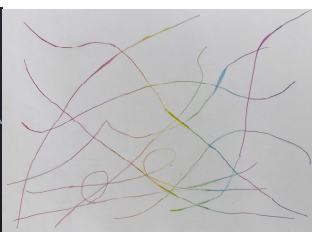
育のあり方や、GIGAスクール構想のもとDX(デジタルトランスフォーメーション)化でのカリキュラムマネジメントなど、変化、変容が求められています。その根底にあるのは、「知識を活用する能力の向上」で、それを支えるのは感性の豊かさです。それはまさにステパノ学園の日常で日々体感でき育まれていることではないでしょうか。

少し話が変わりますが、中学生には中間・期末という定期テストがあります。美術科では毎回(年3回期末・学年末のみ実施)実技テストを行っています。評価の柱は「素材の形や色の特長を、自分が表したいことにどのような生かし表現しているか」です。二学期期末の作品を通し、ステパノ生の感性の豊かさを紹介いたします。

一年生…セロテープを使用し、抽象的な表現で自分の思いや主張したいことを造形した作品です。二年生…「風」をテーマに自分のイメージを表現した平面作品です。画材は自由です。



中3造形実験-色紙アート-「初雪」



中2造形実験-風-「虹色の風」



中1セロテープアート「心の解放」

三年生…幼い頃折って切れ込みを入れ開くことができる「色紙アート」で自分が決めたテーマを形と色のバランスを考え表現しました。

さて、もう一つお話を。週番活動の朝清掃で、中学生は森の中の教室周辺から七曲り、そしてトンネル前までの坂道の落ち葉掃きをします。落ち葉が多い季節はかなりの仕事量になります。

個人的な見解ですが「仕事」とは『人から頼まれた十のことに対し、プラスして十一取組んで仕える事』と考えています。

今、担任しているクラスの男子生徒が、ただ掃き集めるだけではなく、道の両サイドに生える笹の根元に溜まった落ち葉もわざわざ道に掃き出していたので、「ずいぶん念入りだね」と声をかけると、「風が吹くとこれも落ちてきて散らかるから、掃き出して集めて、もっと遠くへ捨てようと思って」という答えが返ってきました。

おお！これぞまさに『仕事人』だと感激いたしました。

人としてどんな考えを持ち、どう生きるか。それは日々の何気ない取組一つ一つから培われることですが、学園の素晴らしい自然、そして人の環境は、それをさらに豊かな学びとして促進してくれています。ここで子どもたちと過ごせる喜びを、これからの仕事により良い形で反映させていこうとあらためて思う次第です。

中村先生を偲んで

教諭 草山 広子

二〇二〇年度、ピカピカの一年生の入学式は、新型コロナウイルス感染症の影響で六月になってしまいました。その年の一年生の担任は、中村先生と私です。四月・五月の休校期間は、各学年動画配信に取り組みました。まず私たちの自己紹介から始めました。中村先生はアローカナ(鶏)を抱えての登場です。画面の向こうの子どもたちは驚いたでしょう。次は飼育小屋の生き物たちの紹介です。うさぎや鳥を登場人物にして簡単な紙人形を作り、テール劇をしました。中村先生と台詞をもちつては笑い、ビデオに収録しました。学校が始まって、教室での礼拝が続き、コロナが少し収まった頃、グラウンドでの礼拝になりました。やっと他の学年の子と出会えました。そんな状態でしたので、新入生歓迎会、春の遠足もありませんでした。そんな中で、「みかん山には行きたいね。」と言うのが中村先生の口癖でした。

日、その夢が実現しました。青い空のもと、子どもたちは笑顔でみかんをほおぼったり、山の斜面をあちこち駆け回ったりして大喜びしました。

みかん山を通して地元の方ともたくさん交流があったようです。ある時、種まきをした後、土を足で踏んだのですが、なかなか芽が出てこなかったそうです。すると、「かかとのついた長靴なんじゃないか。」と教えてくれたそうです。「見たらその通り、驚きましたよ。」と発見を喜ぶように話してくださいました。

発見といえば、持ち上がりとなった二年生の生活科の時間に、探した虫の名前を調べるという授業がありました。ある日「マガリケムシヒキ」のマガリケは「曲がった毛」だということに気がつき、子どものように喜んでいました。こんなふう面白がるので、子どもたちも「これは何？」と色々な虫を捕まえては図鑑を広げていました。

聖ステパノ学園には、飼育小屋の隣に美しい芝生があります。中村先生と一緒に良いということ、芝生の草取りが掃除の場所に加わりました。最初は先生の手元を、ジッと何日も見ていた子が、草と芝生の区別がはっきり分かるようになったそうです。「頼もしいよ。」と目を細めていました。やり始めると一生懸命になってしまい、「五時間目が始まりですよ。」と声をかけるほどでした。

雨の日は、芝生から廊下の水拭きに変わります。子どもたちは、他の学年の先生に「き

れいになったね。」と声をかけてもらえるのも嬉しそうでした。学校の廊下がきれいだったので、入学を決めたという話を聞きました。他校に研修に行ったときなど、廊下やトイレがきれいというのは、本当に心が落ち着きます。

中村先生は、ステパノの森のことを大変興味深く思っていました。私たちは、木の名前をたくさん教えて頂きました。私は、すぐ忘れてしまうのですが、子どもたちはよく覚えていて、「この特徴ある葉っぱの木の名前は、なんだっけ。」と聞くとすぐに元気よく答えてくれました。岩崎山にある木の名前を全部知りたいとおっしゃっていました。

七月六日から高熱が出て入院され、退院後八月末に職員室に顔を見せてくださいました。三学期には、きつと会えると皆待っていました。まだまだ聞きたいことお話ししたいことがあります。九月二十八日に療養中の先生からクラスの子どもたちに手紙が届きました。

二年生のみなさんへ

お手紙 ありがとう。

みんな、元気にやっていますか。けんかしてませんか。お食事しっかりいただいていますか。お祈りの時 目をあけてませんか。きがえたあと、ロッカーはきちんとしていますか。私は、みんなが元気いっぱいステパノ生活を送っていることを毎日想像しています。早く会いたいな。

中村弘之

「小学校」小学校では、1月といことで、正月遊びや書き初めを楽しみ、新しい一年を迎えました。



書き初め

〈2年〉

はつはる
たこあげ

〈3年〉

思いやり
正月の空

〈4年〉

正月の空
光るにじ
正しい心

〈5年〉

元気な子
平和な朝
平和な朝



〈6年〉

無病息災
学業成就
以心伝心
明るい朝
思いやり



「中学校」新型コロナウイルス感染症の対策として、学校生活の様々な変化に順応しながら、生徒たちは元気です。朝の礼拝と、給食の時間の紹介です。

朝の礼拝

(中三 AN)

新型コロナウイルス感染症の大流行が起きてから、運動会やステパノまつりなど、多くの行事ができていない。しかし、そのような状況の中でも、形を変えつつ、行い続けているものがある。その一つが礼拝だ。

礼拝は、コロナが流行る前までは、週三日は小中合同、残りの二日は小中別々で行っていたが、今はそれぞれの学年が自分たちの教室で行っている。でも、別々に礼拝を行っているわけではない。スピーカーから流れてくる放送に合わせて、すべての学年の人達が、同じ時間に同じお祈りをするのでつながっている。チャペルで行っているわけでも、目の前に十字架があるわけでもないため、これを見て「これは礼拝ではない」と思う人もいるかもしれない。しかし、礼拝で大切なことは「形」ではなく、神様にお祈りする「心」である。私は、小学三年生の時からアコライト(礼拝奉仕者)として活動しているが、この活動の中でも、何回も同じようなことを教えられた。式典礼拝で十字架などを持っている先輩の姿に憧れてアコライトになった人も多いと思う。私もそうであった。しかし、ア

コライトの新生が入ってきた時に、毎年言われるのは、「大切なことは礼拝奉仕を上手にできることではなく、奉仕の心を持って礼拝に参加することです。」という言葉である。私達はいい形ばかりを気にしてしまうが、それをどんな気持ちで行うのか、のほうさがすごく大切だ。そして私は、コロナの影響で色々なことが変わっても、その心は変わらないと思う。

黙食でも、おいしい給食大好きです。



☆温かくて工夫がいっぱいの手作り給食。中学生全員を対象に「みんなが好きなメニューアンケート」を実施しました。その結果について中三教室で感想を聞きました。

「味噌ラーメンが一位って、予想通りだね。」
「わかめご飯も人気ある。中3はみんな好きだよ。」
「揚げパンとメロンパンが人気なのは、甘いデザートっぽいからかも。」
「副菜では、中学生全員の半分近くの人がフライドポテトを一位に選んでる。」
「おいしいから!」

「汁物、中3はダントツで豚汁。」「おいしい。」
「マラソン大会の日は毎年必ず豚汁を出してくれる。」「毎年楽しみだったよね。」

「牛乳も思ったより人気あった。」「中三は三人だけなのに中一では半数以上の人が一位に選んだ。」「冬だからポトフも人気だったね。」
「デザート部門はみかん、いちご、プリン。」
「冬の果物って言えば、みかん。」「大学イモも人気あった。」「先生の嫌いな柿が出るとうちのクラスは大騒ぎだね。」

☆新型コロナウイルス感染症対策で、現在は完全黙食です。みんなどう感じているのでしょうか。

「コロナ前と比べて雰囲気は変わった。」「教室中がシーンとなっていて、落ち着いて食べられるのいいと思う。」「今はコロナだからしようにないし、しゃべりながら食べるのはお行儀悪いけど、やっぱりちよつと寂しい。」
「目で会話してる時もあるよね。」「うん。」

☆給食室の皆さんにお礼の一言も寄せてもらいました。まとめて給食室にお届けします。

「給食で、みんなを健康と笑顔にしてくれて感謝しています。」
「おいしいご飯のおかげで午後の授業も頑張れています。給食さんのご飯を食べられて幸せです。これからよろしくお願いします。」





二〇二〇年春より休館していた澤田美喜記念館が、展示を改め開館を始めます。コロナ現況により再び入館制限がありますが（一月中旬現在）、チーフアドバイザーとして着任された武井久江さんにお話を伺いました。

——展示には新たな試みがあるそうですね。

「これまで隠れキリシタン遺物の展示をメインにしてきましたが、加えて澤田美喜さんの生涯も感じていただけるよう、生前のご愛用品やご家族との写真などを展示し、足跡を辿るスペースを一角に設けました。

ママちやまハウス（子ども達から「ママちやま」の愛称で慕われた澤田美喜さんの自宅スペースで、エリザベス・サンダース・ホーム敷地内に現存する建物）等に遺されていた資料を整理したところ、色々な発見がありました。外交官であった夫の澤田廉三さんと共に、ご夫婦で海外往来時に使用されたと思われるルイ・ヴィトンの大きな革製スーツケースの中から、外国製の香水小瓶も出てきて、今帰国されたばかりかのような印象でした。他にも、廉三さんのシルクハットや、シルクハット専用の革製収納バッグ、美喜さんのお着物、小学生時代の通知表も見つかりました。通知表の成績までは展示できませんが（笑）、

ゆかりの品から美喜さんの生涯と功績を感じていただけたらと思います」

——武井さんは大磯で様々なご活躍ですね。

「大磯の街歩きガイドや、記念館の案内役を経験した後、『語り部あこの会』を主催し、大磯にまつわる歴史的人物の生涯について語りでご紹介することを続けています。中でも澤田美喜さんの人生を語っていくことは、ライフワークと考えていましたので、今回の記念館とのご縁は大変嬉しく思っております」

長年調べてこられた歴史上の人物に関する知識が溢れるように言葉となつて紡ぎ出されるパワフルな印象の武井さん、今後もさまざまな展示替えを企画されているそうです。

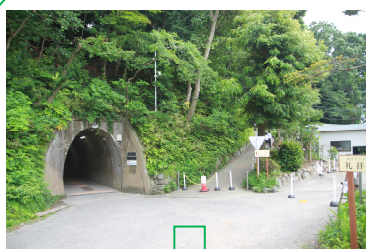
美喜先生のコレクション品として記念館に収蔵の隠れキリシタン遺物は、歴史的にも貴重な品が多くあります。キリシタン大名の高山右近がルソン島への流刑の船上で流木を拾つて彫つたというマリア像、細川ガラシャが所有した聖母マリアの透かし彫りが施されたかんざし、一見すると普通の鏡のようだが、光を当てると反射光の中に濃淡が現れて、キリスト像を壁に映し出すように研磨された銅製の魔鏡など、信仰を貫いた先達の強さが感じられます。休館中も、多くのボランティアの方々が、館内外の清掃を続けてくださったそうです。多様な人々の人生を大きな愛と強さで支えた澤田美喜先生の想いは、その遺志を継ぐ多くの方々のサポートによって、今日も支えられていることを改めて感じました。

STEPHEN'S NEWS

岩崎山が深呼吸

ステパノ学園の森、岩崎山の定期的なメンテナンスが進行中です。森林の樹木管理のプロ「空師」の佐野さんに、将来を見据えて、伐採等整えて頂いています。風が通り、山が息を吹き返します。

伐採前



【編集後記】世間では新型コロナウィルスが猛威を振るっていますが、子どもたちは負けじと元気にいい顔で新年の学校生活を過ごしております。大切な三学期、我々教員も健康第一に、しっかりと子どもたちを支えていく所存です。（一）

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 ステパノ学園小学校・中学校

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

<http://www.stephen-osiso.ed.jp>

二〇二二年二月十日（木）発行 第262号